

かんてつ 通信 貫徹

9月 定例 議会 報告

No. 41



徹する力。

藤沢市議会議員
おおや 徹

発行日
2019年10月
発行者
藤沢市議会議員
大矢 徹 (おおや とおる)
連絡先
藤沢市鶴沼藤が谷 4-17-5
~302
【自宅】0466-47-8255
【携帯】090-8850-6062
【メール】ohya.toru@gmail.com
ホームページ
<http://www.ohyatoru.com>

9月 議会 内容

9月藤沢市議会定例会が、9月2日から10月8日までの日程で開催されました。

主な内容は、工事請負契約の締結について（辻堂市民センター・公民館、消防出張所改築工事）、藤沢市保育所条例の一部改正、令和元年度藤沢市一般会計補正予算、平成30年度決算認定などです。

私は、市側が提案した全ての議案に賛成、決算も認定としました。



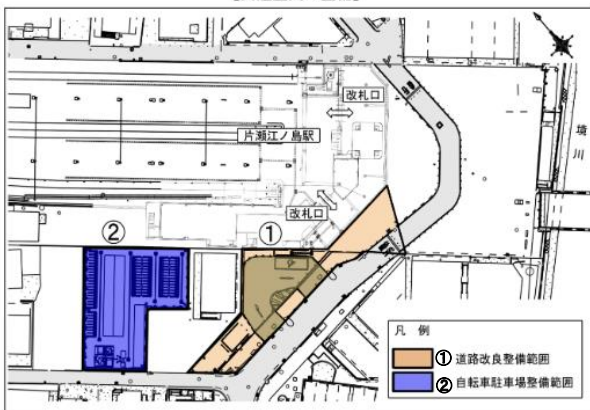
江ノ電柳小路駅にて貫徹通信配布！

1. 片瀬江ノ島駅駅前広場の暫定整備

東京2020大会に向けての暫定整備については、福祉車両や一般車両の送迎などの接車場所を設置するとともに、国内外からの観光客を円滑・安全に誘導するため、周辺の観光案内板と整合を図りながら矢羽型サイン（誘導看板）と防犯カメラの設置を行います。

また、東京2020大会時においては、小田急片瀬江ノ島駅から誰もが円滑に移動できる交通手段として、ユニバーサルデザインタクシーや福祉車両などの発着場とするロータリーの利用を予定します。駐輪場については、取得した用地を活用し約300台の駐輪場を整備します。なお、駐輪場の有料化とあわせて周辺を放置自転車禁止区域に指定します。

【交通空間の整備】



2. 市民病院にLDR室を整備

藤沢市民病院において新たにLDR室を整備しました。LDR室とは、産科においてこれまで患者が陣痛室、分娩室、病室と部屋を移動していたものを同じ部屋で行うことで患者の負担を軽減するものです。

3. 交差点の安全対策を実施

本年5月の滋賀県大津市における保育園児ら16が死傷した交通事故を踏まえ、歩行者の多い藤沢駅、辻堂駅、湘南台駅周辺部の55交差点に対し、緊急対策として車止め及びガードパイプを設置し、歩行者の安全対策を図ることとなりました。

【施エイメージ】



4. 地域福祉プラザの整備

令和2年1月に供用開始予定の市役所分庁舎内（旧新館）に整備する「地域福祉プラザ」については、地域福祉推進の拠点として、基本コンセプトを「地域をつなぐ～多様な主体による参加と協働」とします。なお、フロアに配置予定の各種団体や機能は次の通りです。

分庁舎1階	藤沢市社会福祉協議会・藤沢地区更生保護サポートセンター・相談室・福祉喫茶室・物販スペース・オープンスペース
分庁舎2階	地域福祉活動センター（社会参加スペース、キッズスペース、多目的スペース、活動室）・JOBチャレふじさわ・ファミリーサポートセンター

5. 平成30年度の藤沢市財政状況

地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、毎年度議会に報告、公表するもので、結果は次の通りです。

項目	説明、数値(平成30年度)		
実質赤字比率	一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率		
	早期健全化基準	本市の状況	状態
	11.25%以下	-6.98%(黒字)	良好
連結実質赤字比率	全会計を対象とした実質赤字額または資金不足額の標準財政規模に対する比率		
	早期健全化基準	本市の状況	状態
	16.25%以下	-18.02%(黒字)	良好
実質公債費比率	一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率		
	早期健全化基準	本市の状況	状態
	25.0%以下	1.6%	良好
将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率		
	早期健全化基準	本市の状況	状態
	350%以下	42.4%	良好

また、下水道事業費特別会計資金不足比率は-18.8%、市民病院事業会計資金不足比率は-30.9%で、ともに経営健全化基準(20%以下)を下回っており良好な状態です。

以上のように、健全化に関する指標全てにおいて良好な数値となっており、藤沢市の財政が健全であることが確認されました。

決算討論

平成30年度決算認定にあたり、私が所属する「民主・無所属クラブ」からは、竹村議員が賛成の立場で討論をしました。一部を抜粋して紹介します。

【歴史的建造物の保存について】

他市に比べて、民間所有の文化財が多い藤沢では、相続などにより、歴史的建造物が次々に失われていくことに強い危機感を持っている。

歴史的建造物の維持保存について、抜本的な対策を早急にするよう、強く要望する。

【ヤングケアラー支援について】

藤沢市におけるヤングケアラー(介護やケアを担う18歳未満の子どもたち)の問題について、具体的な支援のあり方を検討するよう要望する。

また、「心の病を抱えた親を持つヤングケアラーへの支援教育」の講演会の様子がテレビで放送されるなど、藤沢の問題提起は大きな反響を呼んでいる。

心の病を抱えた当事者への支援に加えて、その配偶者やきょうだい、子どもへの支援の取り組みを要望する。

【不就学児童生徒への対策について】

国際人権規約や難民条約では、国籍や在留資格の違いに関わらず全ての子どもに「教育を受ける権利」を保障することを求めているが、藤沢市において、就学先不明の外国籍児童生徒が46人いることが確認されている。

先進自治体での取り組みを踏まえ、教育委員会、福祉健康部、子ども青少年部の連携で、「不就学ゼロ」に取り組むことを要望する。

【人権施策の推進について】

オリンピック憲章は「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別もあってはならない」ことを定めているが、本市でも極めて深刻かつ重大な人権侵害が起きている。

オリンピックに向け改めて人権啓発の推進と、インターネット上の差別書込みの早急な削除要請を行うなど、市民の人権を守る取り組みを進めるよう強く要望する。

【同性パートナーシップ制度について】

藤沢市において、LGBT(性的趣向または性自認)への支援を求める声はまだ大きくないかもしれないが、社会的な差別や偏見の前で声をあげることができない、と捉えるべきである。

県内他市においても導入が進んでいる同性パートナーシップ制度導入に向けた積極的な検討を要望する。

【ペットボトル・缶の夏季毎週収集の試行について】

ペットボトルと鍋・缶の夏場における毎週収集の試行が5年目となるが、猛暑が続く中での収集職員の作業量や作業時間が増大し、大変な負担が生じている。

プラスチックを減らすという世界の潮流に逆行すること、さらに収集車の増車による排ガス問題や中間処理施設の限界などを踏まえ、施策の方向性の再検討を要望する。

私の考え

ペットボトル・缶の夏季毎週収集を行うことで便利になることは認めますが、新たな税の投入、収集職員への負担増、熱中症による生命の危険性を冒してまで市域全体に拡大するべきではないと考えます。市内スーパーによる回収が進む中、ある意味では毎日が収集日と言える状況なので、回収していないスーパー等に対して排出者責任としての回収を促進していくことの方が重要だと考えます。



大豊 肉みそ炒め定食

今回紹介するのは、県道戸塚茅ヶ崎線を藤沢警察署から茅ヶ崎方面に行った市境のところ(右側)にある「大豊」です。いわゆる街の中華屋さんで、この「肉みそ炒め定食」が好物です。お店の雰囲気も昭和という感じで、私はこういうお店が好きです。

